

3. 石巻圏域子ども・若者総合相談センターの成果

① 支援の必要性が高い孤立状態にある層につながっている

【1-1】相談できる相手や居場所についてを全国と比較してみると(図18、図19、図20)、本調査の回答者の方が「どこにも相談できる相手がいない」「どこにも居場所がない」「困ったときにどこにも助けてくれる人がいない」と感じている人の割合が多いことが分かる。2-2-④(P6～7)で示したように、相談者の困りごとが複雑多岐であることを鑑みても、このことは子若センターが孤立状態にあり生きづらさを抱えている子ども・若者層にリーチできていることを示しているといえる。

【1-2】また、2-2-③(P12～14)からも分かる通り、自分でも困りごとが明確になっていない状態の子ども・若者にもリーチできている。

調査① アンケート調査 相談できる相手がいない (相談当初・全国との比較) (図18)

図18は、設問23『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】あなたが「何でも悩みを相談できる人がいる」と感じていたのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』と全国調査を比較したグラフである。何でも悩みを相談できる人がいると感じる場所について、「特にない」「どこにも相談できる人がいない」と回答した割合は、子若センター相談当初は35.2%、内閣府調査の全国調査では21.8%となっており、全国と比べ13.4ポイント高い数値になっている。

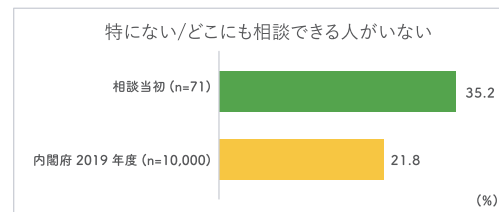


図18:相談相手の有無について相談当初と全国との比較

調査① アンケート調査 居場所がない (相談当初・全国との比較) (図19)

図19は、設問22『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】当時のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所など)だと感じていた場所を教えてください(いくつでも)。』と全国調査を比較したグラフである。居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所)だと感じている場所に、「特にない」「どこにも居場所がない」と回答した割合は、相談当初は26.8%、内閣府の全国調査では5.4%となっており、全国と比べ21.4ポイント高い数値になっている。

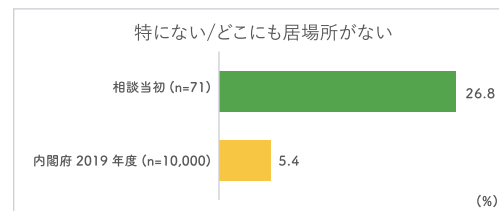


図19:居場所だと感じている場所がないについて相談当初と全国との比較

調査① アンケート調査 困ったときに助けてくれる人がいない (相談当初・全国との比較) (図20)

図20は、設問24『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】あなたが「困ったときは助けてくれる人がいる」と感じていたのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』と全国調査を比較したグラフである。困ったときに助けてくれると感じている人に関して、「特にない」「困ったときにどこにも助けてくれる人がいない」と回答した割合は、相談当初は29.6%、内閣府の全国調査では11.3%となっており、全国と比べ18.3ポイント高い数値になっている。

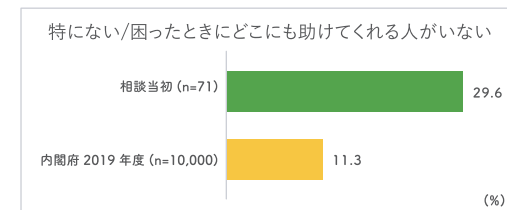


図20:困ったときにどこにも助けてくれるひとがないについて相談当初と全国との比較

② 困りごとに寄り添い、主訴の顕在化や困りごとを整理した

【2-2】2-2-①(P6～7)で示した通り子若センターの相談者の困りごとは複合的であり、一方で2-2-③(P12～13)で示した通り困りごとが曖昧な状態で子若センターにつながる相談者もある。インタビューで聞かれた相談者の声(表16)や、アンケートの困りごとの改善理由(表17)によると、子若センターでは繰り返し面談を重ねながら、時間をかけて、困りごとを紐解くサポートや子ども・若者本人が主訴に気付く過程に寄り添う関わりができたことが分かる。その結果、困りごとが改善したか(図21)について「そう思う」が27.0%、「どちらかといえばそう思う」が48.0%で計75.0%の人の困りごとが改善していることが分かる。

調査① インタビュー調査より一部抜粋

相談者は相談当初就労に向けて動いていたが、思い通りに進んでいなかった。子若センターでの相談員との対話を通して、相談者自身にとって必要な支援のイメージが具体的になっていったため、本人のニーズに合った支援機関を紹介することができたエピソードが語られている。

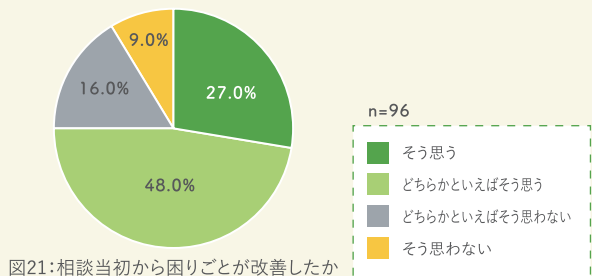
相談者Nのインタビュー内容(表16)

インタビューー	いえいえ。ありがとうございます。もう1個は相談の場面、相談だけじゃないんですけど、子若センターのところで感じたところを当時を思い出していただきながら、ご質問したいんですけど。相談される方って、最初から明確にこれとこれを希望しているというふうに思う方と、相談しているうちに、最初は何となく就労方面で困ってるなどが、就労方面で相談したいとかかみたいところをわりとバックとしてあって。話しているうちに明確になっていく方と、いらっしゃると思うんですけど、先ほど就労の前をやりたいというふうに仰ってましたけれども、それはわりと明確に最初からお持ちでこちらにいらっしゃった感じですか？
相談者N	それに関しては、最初はいえ、漠然としてまして。ただ、それこそ最初(支援機関)を知っているというか、それも親に紹介されてこういふところあるんだなみたいな感じで。ここはどうなんですかみたいな感じで、確かこちらに相談して。で、こちらから、それもあるけど(上記とは別の支援機関)とかそっち方面もあるよみたいな感じで提案してもらって。いろいろ話している間に、いきなり就職に向かうより就職の前段階のほうがいいなというのが、固まってきた感じだったはず。最初から決まっていたというよりは、相談しながら、就職の前段階からいったほうがいいんじゃないか、となったはず。です。

(石巻市、男性、20代)

調査① アンケート調査 設問33「子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか」(図21)

図21は、子若センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたかという問いについて、「そう思う」が27.0%、「どちらかといえばそう思う」が48.0%となり、合計して75.0%が困りごとが改善したと回答している。一方で「そう思わない」が9.0%、「どちらかといえばそう思わない」が16.0%となっている。



調査① アンケート調査 設問34「子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか。その回答した理由を教えてください。※記述回答」

複雑化した課題に対して、時間をかけて話を聞いたことで相談者の困りごとに対して適切なアドバイスや支援機関へのつながりができたことが読み取れる。また、相談者本人の課題解消だけでなく、親御さんも含めた世帯支援を実施してきたことで心身の安定による気持ちの整理ができ、結果として課題解決に向けて良い方向に動いていった。

アンケート調査① 設問33で「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答した回答者の回答理由(表17)

- ・相談した事で自分も気持ちの整理が出来た。(どちらかというそう思う、石巻市、男性、小学生の保護者)
- ・ゆっくりと、しっかりと話を聞いてもらえてその上でどうすればいいかのアドバイスを貰えたから。(そう思う、石巻市、女性、中学生)
- ・相談によって自分の気持ちを整理できたほか、自習室として施設を使用することを許可していただいたため。(どちらかというそう思う、石巻市、男性、大学生・短期大学生)

③ 相談者の状態・状況の改善

【3-1】「相談できる相手がない」「居場所がない」「困ったときに頼れる人がいない」を内閣府による全国調査と本調査の相談当初、現在の3点で比較すると(図22、図23、図24)、相談当初は全国よりも高い値だが、現在の値は改善されていることが分かる。なお、内閣府が行った全国調査(対象13歳～29歳までの男女)は全国の相談機関の相談者の値ではなく、一般の青少年の値となっており、現在の値は全国値に近く「相談できる相手がない」の改善は、子若センター及び協議会構成機関の支援の成果であると読み取れる。また、困りごとの改善度合い(図25)についても、約3/4が改善したと回答している。その理由(表18)からも、全ての課題が解決したわけではなくとも、少なくとも状態が上向きになっていることが読み取れる。これらは、ネガティブな要素が緩和されたことを示していると解釈できる。

調査① アンケート調査 相談できる相手がない
(相談当初・現在・全国との比較) (図22)

図22は、設問23『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】あなたが「何でも悩みを相談できる人がいる」と感じていたのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』と、設問20『あなたが「何でも悩みを相談できる人がいる」と感じるのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』、全国調査を比較したグラフである。何でも悩みを相談できる人がいると感じる場所について、「特になし」「どこにも相談できる人がいない」と回答した割合は、相談当初は、35.2%、現在では22.5%と相談当初に比べ、12.7ポイント改善されたことが分かる。また、内閣府の全国調査では21.8%となっており、全国と同水準まで改善されていることが分かる。

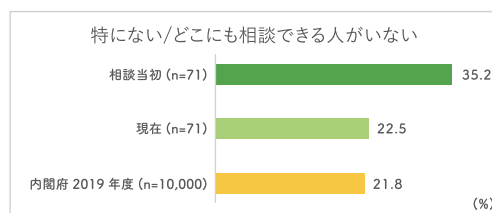


図22: 相談相手の有無について相談当初と現在の全国比較

調査① アンケート調査 居場所がない
(相談当初・現在・全国との比較) (図23)

図23は、設問22『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】当時のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所など)だと感じていた場所を教えてください(いくつでも)。』と、設問19『今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所など)だと感じる場所を教えてください(いくつでも)。』、全国調査を比較したグラフである。居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所)だと感じている場所について、「特になし」「どこにも居場所がない」と回答した割合は、相談当初は26.8%、現在では16.9%となっており、9.9ポイント改善されたことが分かる。また、内閣府の全国調査では5.4%となっており、現在も全国値より高いことが分かる。

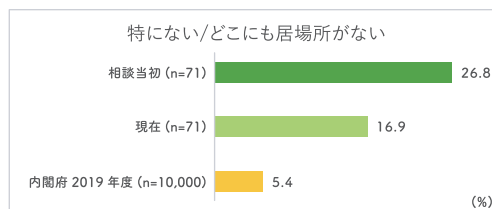


図23: 居場所だと感じている場所がないについて相談当初と現在の全国比較

調査① アンケート調査 困ったときに助けてくれる人がいない
(相談当初・現在・全国との比較) (図24)

図24は、設問24『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】あなたが「困ったときは助けてくれる人がいる」と感じていたのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』と、設問21『あなたが「困ったときは助けてくれる人がいる」と感じるのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』、全国調査を比較したグラフである。また、内閣府の全国調査では11.3%となっており、全国に近い値まで改善されたことが分かる。

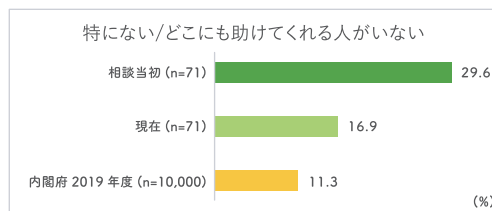


図24: 困ったときにどこにも助けてくれる人がいないについて相談当初と現在の全国比較

調査① アンケート調査 設問33『子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか』(図25)(再掲)

図25は、子若センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたかという問いについて、「そう思う」が27.0%、「どちらかといえばそう思う」が48.0%となり、合計して75.0%が困りごとが改善したと回答している。一方で「そう思わない」が9.0%、「どちらかといえばそう思わない」が16.0%となっている。

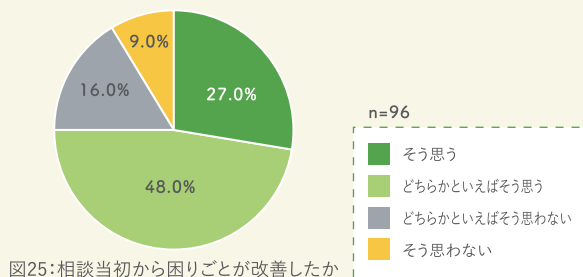


図25: 相談当初から困りごとが改善したか

調査① アンケート調査 設問34『子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか。回答した理由を教えてください。※記述回答』

下記の回答から、全ての課題が解決されたわけではなくとも、悩みや環境が改善され前向きになっていることがうかがえる。

アンケート調査① 設問33で「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答した回答者の回答理由(表18)

- ・ 子供が、学校や進路に向け前向きに考え始めてくれた。(どちらかというそう思う、石巻市、男性、中学生の保護者)
- ・ 前は苦しいことばかりだったけど、相談したら今は楽しいことばかりしかないからです。(どちらかというそう思う、石巻市、女性、高校生)
- ・ 困って大変だった時期のお陰で乗り越えることができた。(そう思う、石巻市、男性、大学生・短期大学生)
- ・ 色々悩んでいたのが無くなる感じがあって良かった。(どちらかというそう思う、石巻市、男性、正規職員・正規社員(自営業・個人事業主を含む))
- ・ 改善とは反対の方向に進んでいる状態だが、だからこそ、色々な機関にお話を聞く機会が増えて、協力者も増えた。(どちらかというそう思う、東松島市、女性、小学生の保護者)
- ・ 概ね改善した。殆どは時間が経過していくにつれて、不安なことが改善していき問題の対処が自分で進められるようになったと感じる。(バイトを始められるようになったり、引越したりなどがきっかけ)しかし、その間の心のケアがしっかりあったので、何とか自分で対処できたのだと思う。(どちらかというそう思う、石巻市、女性、大学生・短期大学生)

【3-2】また、自己認識についての相談当初・現在・全国と比較(図26、図27、図28)を見ると、相談当初に比べて現在の方が自己認識について前向きな回答が多くなっていることが分かる。全国の一般の青少年の値と比較しても、同等か上回る項目も見られた。生活の充実度についての相談当初と現在の比較(図29)を見ても、充実している人の割合が増えていることが分かる。これらのポジティブが高まるような変化は、ネガティブの低減の結果として起きていると推察される。

調査① アンケート調査 自分自身に満足している(相談当初・現在・全国との比較)(図26)

図26は、設問13-1『あなたが子ども・若者総合相談センターに相談した時の状況について教えてください』あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりましたか。【センターに最初に相談した時】自分自身に満足している』と、設問7-1『あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。いまの自分自身に満足している』の、全国調査を比較したグラフである。自分自身に満足しているかという問いに対し、「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した人の割合は、相談当初が28.2%、現在が47.9%と、相談当初に比べ19.7ポイント増加していることが分かる。またこの結果は、内閣府調査の全国値に比べ、7.1ポイント高くなっている。

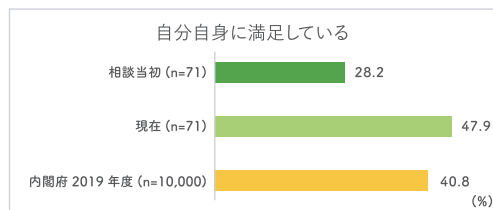


図26: 自分自身への満足度に関して相談当初、現在、全国との比較

調査① アンケート調査 うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(相談当初・現在・全国との比較) (図27)

図27は、設問13-3『【あなたが子ども・若者総合相談センターに相談した時の状況について教えてください】あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりましたか。【センターに最初に相談した時】うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む』と、設問7-3『あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む』の、全国調査を比較したグラフである。うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組むかという問いに対し、「あてはまる」「どちらか」というあてはまる」と回答した人の割合は、相談当初は47.9%、現在は57.7%と、相談当初に比べ9.8ポイント増加したことが分かる。また、この結果は、内閣府調査の全国値に比べ、5.8ポイント高くなっている。

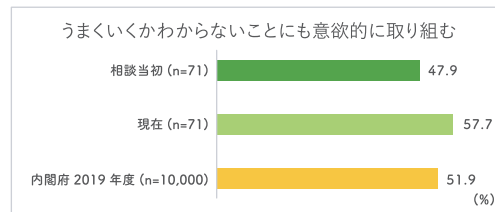


図27:うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む
相談当初、現在、全国との比較

調査① アンケート調査 自分の将来について明るい希望を持っている(相談当初・現在・全国との比較) (図28)

図28は、設問15『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。』と、設問9『あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。』の全国調査とを比較したグラフである。自分の将来について明るい希望を持っているかという問いに対し、「あてはまる」「どちらか」というあてはまる」と回答した人の割合は、相談当初は26.8%、現在は46.5%と相談当初に比べ19.7ポイント増加したが、全国と比べると、現在も低くなっていることが分かる。

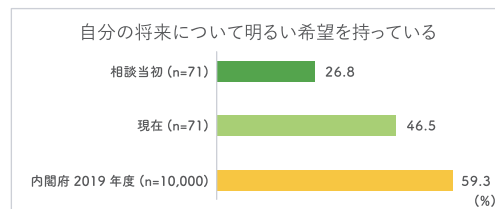


図28:自分の将来について明るい希望をもっているか
相談当初、現在、全国との比較

調査① アンケート調査 生活の充実度(相談当初・現在の比較) (図29)

図29は、設問14『【あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください】あなたは、当時の生活が充実していたと思いますか。あなたの実感をお答えください。』と設問8『あなたは、今の生活が充実していると思いますか。あなたの実感をお答えください。』という問いに対して、「充実している」「どちらかといえば充実している」の回答を合わせると、相談当初は36.6%であったが、現在は64.8%であり、相談当初に比べ、28.2ポイント増加した。

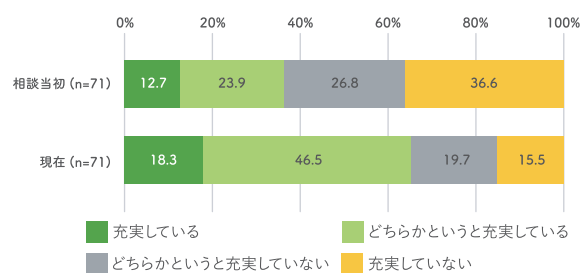


図29:相談当初と現在の生活の充実度の比較

④ 子ども・若者への相談支援と子ども・若者を取り巻く環境への支援の実施

【4-1】子若センターが「相談に十分のってくれた」と感じている割合は8割を超えている。また、「そう思う」と回答した人が半数を占めており、子若センターとして相談者の相談に十分のっていたことが読み取れる(図30)。また、役に立った支援については、「話を聞いてもらったこと」が8割以上、「アドバイスをもらったこと」が4割以上、「何回でも相談にのってもらえたこと」が3割以上であった(図31)。これらの結果から、子若センターは相談者が満足いくような相談支援を行えたことが窺える。子若センターでは、相談回数の上限等を設けることなく相談対応を実施しており、調査概要(1-1-③、P2)にある通り、2021年度には1,046回の相談対応(前年比270回増加)を実施している。

調査① アンケート調査 設問26『子ども・若者総合相談センターは、あなたの相談に十分のってくれましたか。』(図30)

図30は、「子ども・若者総合相談センターは、あなたの相談に十分のってくれましたか」という問いについて回答者の85.4%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。

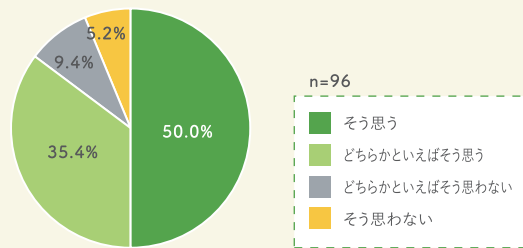


図30:センターはあなたの相談に十分のってくれたか

調査① アンケート調査 設問28『子ども・若者総合相談センターの支援の中で、役に立った支援を教えてください(いくつでも)。』(図31)

図31は、子若センターで役に立った支援のうち、多かった回答は、「話を聞いてもらったこと」が最も多く71.9%、次に「アドバイスをもらったこと」が40.6%、「何回でも相談に乗ってもらえたこと」が34.4%であった。

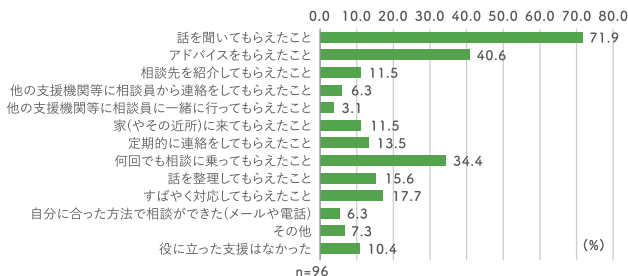


図31:センターの支援の中で役に立った支援

【4-2】また、相談者の困りごとを整理するにつれ、子ども・若者本人だけの課題ではなく世帯課題がからみあっている場合が多いことも分かった。そのため、子ども・若者本人への直接的な支援だけでなく世帯や家族に対して、あるいは関係機関との調整等、間接的な支援を実施しなければ、本人の不安感や困り感の解消に至らないケースも多い。調査概要(1-1-③、P2)にある通り、相談対応回数のうち356回が家族、448回が関係機関(学校、行政機関、支援機関)となっている。このように必要に応じて家族へも面談や助言、情報提供やつなぎ支援を行ったことで、相談者の困り感の解消につなげることができたとと言える(表19)。

調査① アンケート調査 設問33『子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか』(図32)(再掲)

図32は、子若センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたかという問いについて、「そう思う」が27.0%、「どちらかといえばそう思う」が48.0%となり、合計して75.0%が困りごとが改善したと回答している。一方で「そう思わない」が9.0%、「どちらかといえばそう思わない」が16.0%となっている。

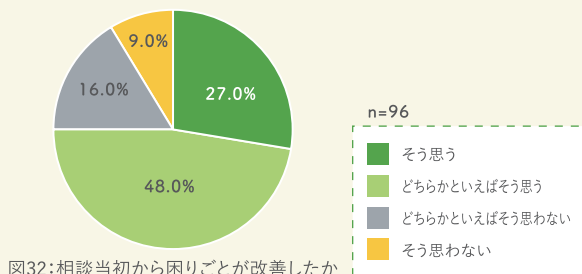


図32:相談当初から困りごとが改善したか

調査① アンケート調査 設問34『子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか。その回答した理由を教えてください。※記述回答』

表19より、相談者本人だけでなく、親と他機関を調整することで、本人にとってのサポート体制を作ることができ、相談者の環境が良い方向に動いていったことが分かる。

アンケート調査① 設問33で「そう思う」「どちらかという」と「そう思う」と回答した回答者の回答理由(表19)

- ・多方面と情報を共有できる事によって、親のサポートなどもしてくれたので、最初より環境が良くなった。(そう思う、石巻市、女性、パート・アルバイト等)
- ・パソコン教室、ボランティアなどで今までなかなか体験できなかったことを体験出来た。スキルアップできた。仕事をする1歩を踏み出す勇気がでた。(そう思う、石巻市、女性、パート・アルバイト、契約社員など非正規職員)
- ・適切な居場所に行き着いた事で、親子共に心身の状態が安定した。方向性が定まって育て方に酷く悩むことなく前向きに生活出来るようになった。(そう思う、石巻市、女性、小学生の保護者)

⑤ 協議会構成機関等からの評価

【5-1】3分野13機関からアンケートの回答を得た調査②より、子若センターとの連携と評価(図33)を見ると、連携については約7割の機関が円滑にできていると回答しており、約9割の機関が子若センターが石巻圏域の支援体制上役に立つと回答している。子若センターと連携して良かった点(表20)を見ると、特に情報共有や即時的な対応について評価を得ていることが読み取れる。これらから、子若センターの存在・子若センターとの連携が協議会構成機関の中で評価されていると言える。一方で、連携の円滑さについては約3割が「どちらかといえばそう思わない」と回答しており、さらなる連携と協働を通して、石巻圏域の支援体制を作っていく必要がある。

調査② 機関等調査 機関票 設問8『子若センターとの連携は円滑にできていますか。』及び『子若センターの活動は石巻圏域の支援体制上役に立っていると感じますか。』(図33)

図33は、子若センターとの連携は円滑にできているかについては、「そう思う」が38.5%、「どちらかというと思う」が30.8%で合計すると69.3%であった。石巻圏域の支援体制上役に立っていると感じるかについては、「そう思う」が61.5%、「どちらかといえばそう思う」が30.8%で合計すると92.3%であった。

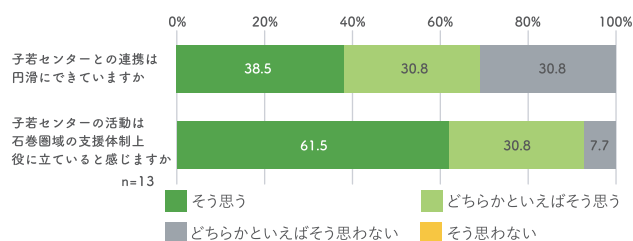


図33:子若センターの評価及び連携

調査② 機関等調査 機関票 設問9『子若センターと連携して良かった点があれば教えてください。』※記述回答(表20)

- ・ ケース紹介や紹介していただいたケースの情報共有、支援にかかわる相談などをタイムリーに受けていただいている。(保健福祉)
- ・ 複数機関がかかわることにより、支援の偏りがなく、利用者を取り巻く環境を考慮して支援の組み立てができる。(保健福祉)
- ・ アウトリーチすることの大切さや、依存させることなく相談者ファーストの相談がされているため、信頼して相談者のために協働できる。(保健福祉)
- ・ タイムリーに情報共有、今後の方針の検討をしながら連携させていただいているため。(保健福祉)
- ・ 定期的に情報共有はできているため。(保健福祉)
- ・ 当所は子ども・若者に関する相談は多くないが、個別相談や専門相談を利用した方に必要に応じて子若センターについて情報提供している。(保健福祉)
- ・ 子若センターと当所(窓口担当)が関わっているケースについては、状況により情報共有しながら対応できている。(保健福祉)



4. 石巻圏域子ども・若者支援地域協議会構成機関等の対応状況

図34では、子若センターから紹介された機関等のサポートは役に立ったかという問いについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した合計は74.4%と高い水準となっている。表21の回答理由を見ると、本人のニーズに沿った支援がなされていることが読み取れた。一方で、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した合計は14.0%であり、「紹介されたが、つながらなかった」と回答した割合は11.6%であった。その回答理由を見ると紹介された機関での支援がうまくいかなかったことが分かった。

調査① アンケート調査 設問30『紹介された機関等のサポートは役に立ちましたか。』(図34)

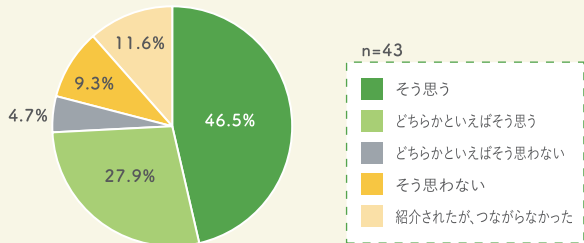


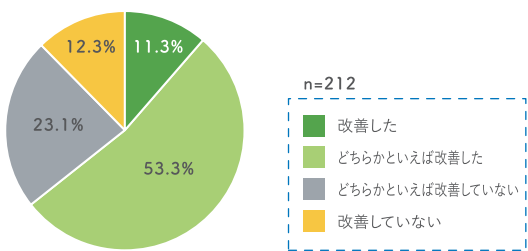
図34: 紹介された機関等のサポートが役に立ったかに関する割合

調査① アンケート調査 設問31『紹介された機関等のサポートは役に立ちましたか。その回答理由を教えてください。』(表21)

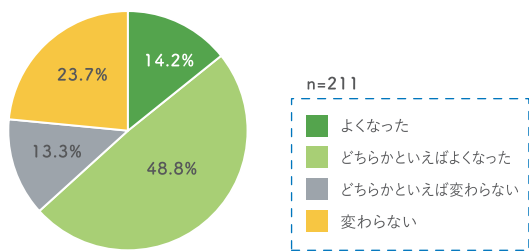
- ・サポートのおかげで今の自分がいるから。(そう思う、石巻市、女性、高校生)
- ・当時家庭の問題や自分自身の問題で家では年齢相応に安心して勉強したり過ごしたりすることが全く出来ない状況だったので、相談先が漢検などの資格の勉強をする良い場所になってくれたから。(どちらかといえばそう思う、石巻市、性別:どちらともいえない、大学生・短期大学生)
- ・約1年ほど、体調が良い時に通い続けているから。少しずつ社会復帰に向けて動いていると感じたから。(どちらかといえばそう思う、石巻市、女性、高校生)
- ・フリースクールを紹介されたけど結局2回くらいで行けなくなった。(そう思わない、石巻市、女性、中学生)
- ・効果が無かったから。(そう思わない、石巻市、男性、その他(家事手伝い、主に自宅で勉強中の人など)の保護者)
- ・子供が心を開くことはできず終いました。(そう思わない、石巻市、女性、中学生の保護者)

図35では、相談者の課題の改善状況について、「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答した合計は64.6%であった。また、図36では、相談者の状態について、「よくなった」「どちらかといえばよくなった」と回答した合計は63.0%であった。どちらも6割程度の相談者が子若センターからつながった支援機関の支援を通じて、課題や状態が改善されたことが分かる。各支援機関では、相談者のニーズに対して即時的かつ柔軟に対応したり、関係機関と情報共有や役割分担を行うなどの工夫をしながら、支援をしていることが分かる。また、本人の主訴や声を大事にしながらか支援をするだけでなく、保護者とも良好な関係性を築こうとしている姿勢がうかがえる。

調査② 機関等調査 個別ケース入力票 設問13『相談者の課題は改善されましたか。』(図35)



調査② 機関等調査 個別ケース入力票 設問14『相談者本人の全体的な状態はよくなりましたか。』(図36)



調査② 機関等調査 機関票 設問7『効果的に支援を行うためには、どのようなことを大事にしていますか。』(表22)

- ・柔軟性・即時性。(保健福祉)
- ・ケース担当が抱え込まず、内部連携、関係機関と情報共有、役割分担を行いながら支援を行うことを大切にしている。(保健福祉)
- ・相談者の主訴、状況の正確な把握。(保健福祉)
- ・本人及び保護者と良好な関係性を築き、信頼を損ねないこと。(教育)
- ・子ども・若者本人の声を拾い、彼らの視点に立ち続けようとする。(教育)

表23、24からは、子若センターから関係機関につながった後の本人への支援の難しさも読み取れる。複数の機関から本人への伴走や継続的な支援の必要性が分かるが、新型コロナウイルスの感染拡大や人材不足、他機関との連携上の課題などから、継続的な関わりが途絶えたり、本人の相談意欲につながらないといった状況が分かる。

調査② 機関等調査 個別ケース入力票 設問13-①『13で「どちらかといえば改善していない」「改善していない」と回答した場合、どのようなことに困っていますか』(表23)

- ・本人が支援を拒否している。(改善していない、教育)
- ・子どもへのかかわり方に対し継続的に大変さがある。(どちらかといえば改善していない、保健福祉)
- ・母への支援や関係機関との調整により改善してきた課題もあるが、新たな課題が湧き上がっている状態。本人は学校を時折休み、昼夜逆転しているときがある状態。(どちらかといえば改善していない、教育)
- ・家庭に問題があるが、家庭に介入できる人材がおらず、根本的な解決には至らなかった。本人が18歳を超えたため、関わってくれる人や機関が少ない。本人の相談意欲がなく、支援が中断された。(どちらかといえば改善していない、教育)
- ・コロナ感染拡大で利用が途絶えた。(改善していない、保健福祉)

調査② 機関等調査 個別ケース入力票 設問13-②『13で「どちらかといえば改善していない」「改善していない」と回答した場合、今後解決のためにどのような取り組みを行う必要があると思うか教えてください』(表24)

- ・引き続き現状の支援が担保されること。(改善していない、保健福祉)
- ・心のケアをしながら、高校卒業・卒後進路のサポートを継続する必要がある。(改善していない、保健福祉)
- ・本人と無目的に関われる人が増える。(どちらかといえば改善していない、教育)
- ・所属機関がなくても、居場所として機能する場所や伴走してくれる人材が必要。(どちらかといえば改善していない、教育)

※ 調査結果の詳細に関しては、別途付録を参照

